

人権啓発センター だより

平成27年8月

No.20

(公財) 高知県人権啓発センター



雑感

7月、岩手県で中学2年生がいじめを苦に自殺するという問題が大きく報道されました。このようなニュースを見るたびに、胸が締め付けられる思いになるのは、私だけではないと思います。いじめのなかでも、最近悪質化しているのが「ネットいじめ」です。

7月17日の高知新聞には、嶺北高校の自主防犯組織「嶺北フリューゲルス」が無料通信アプリLINEでの仲間外れを題材とした寸劇で、ネットを利用する際の注意を全校生徒に呼びかけたという記事が載っていました。また、幡多地区では、「幡多っ子ネット宣言」を各家庭に広め、利用時間の制限や親子でのルールづくりなどの取組につなげています。子どもも大人も、ネットトラブルを自らの問題として考え、立ち上がろうとする動きが県内各地で始まっています。

高知県教育委員会では、10月25日(日)、太平洋学園高等学校において、「ネット問題」を子どもと大人で考える県民フォーラムを開催します。高知家の子どもたちがネットトラブルに巻き込まれないために何ができるのか、子どもと大人で一緒に考えてみませんか。

(高知県教育委員会人権教育課 森下)



人権あれこれ

～障がい者への差別について～

6月に、旅行で旭川駅に降りる機会があった。駅はとてもきれいで、近代的な建物だった。駅前を歩いていると案内板が設置されていた。行き先が漢字と点字で表示されている。横に、ボタンがあったので、押してみると視覚障がい者用の音声案内であった。ちょうど三浦綾子記念文学館の場所を探していた私にとって、それはとても助かった。その10日後、岡山市で開催された第40回部落解放・人権西日本夏期講座に参加した。「障がいのある人はどんなことを差別と感じているのか」という話を聞いた。車いすで外出した方が、バスに乗ろうと停留所で待っていたが、何度も運転手から無視をされ、やっと乗れたと思ったら「こんな忙しい時間帯に出てくるな」と乗客から



心ない発言を浴びせられたという事例が紹介されていた。

来年4月から障害者差別解消法が施行される。差別を禁止する画期的な法律であり、障がい者に対する「不当な差別的取り扱い」と「合理的配慮を行わないこと」が禁止されている。駅の案内板のように、誰もが使いやすいように改善されてきているものもあるが、私たちの意識上のバリアを無くすにはまだまだ課題があることを認識させられた。

(研修講師 藤本)

じんけんライブラリー

一押し本

金澤翔子、涙の般若心経

～ダウン症の赤ちゃんが天才書家と呼ばれるまでの奇跡の物語～

金澤泰子／著 世界文化社 (1,200円＋税)

「終生、完結した自立はないだろう」。42歳で翔子さんを出産したことを「人生最大の苦悩」と嘆いた3年間。しかし、5歳から書道を教えるなど、次第にありのままのわが子を受け入れられるようになります。そして、一度きりと考えた翔子さん二十歳の時の個展が親子の大きな転機になりました。「ダウン症は障害ではなく、かけがえのない個性であり、大いなるプラスの才能。このメッセージを送ることが、自分が天から与えられた役目」、そう語る著者にもう涙はありません。

◎金澤泰子さんは来年2月21日、ハートフルセミナーの講師として来高されます
(企画啓発課 宮田)

ちょっといい話

人は自信を失うと、いろいろなことが困難になってきます。

「やっても、どうせだめ」とか「また、失敗する」というあきらめが、子どもが本来、もっている能力を発揮できなくさせます。だから、この「どうせダメ」という気持ちを「やればできるんだから、がんばってみよう」という前向きな気持ちにおきかえられるように、親や教師は子どもをよく見る必要があります。よく観察すれば、こういった分野でなら発揮できるのかが見極められ、その力を最大限伸ばせるように、指導・支援することができるようになるでしょう。

自己効力感が低く、自分なんてダメだ、と思っている子どもでも、「これならでき

る」という実感が持てるものがあれば、必ずや、いつの日か自分で進む道を見つけていきます。

それなのに、親や教師は、とにかく子どもに何かで頭角を現すように期待して、子どもをつぶしてしまいます。大人は子どもが失敗を恐れることなく、自分の持っている能力を最大限伸ばせるように導いてあげることがだいじなのです。

「算数の天才なのに計算ができない男の子のはなし 算数障害を知ってますか？」(絵本)の「あとがき」の『エドワード・ハロウェル博士よりみなさんへ』より

(研修啓発課 山本)



事業報告

第42回「部落差別をなくする運動」強調旬間啓発事業を開催しました

2015年7月15日(水)午後1時～4時
会 場：高知県民文化ホール（オレンジホール）
参加者：483名

7月10日～20日は「部落差別をなくする運動」強調旬間です。県民の皆様の同和問題に対する理解と認識を深めていただくために、本年度も啓発事業として、映画「ある精肉店のはなし」の上映と、この映画を監督された縦縞（はなぶさ）あやさんによる「いのちを食べて いのちは生きる」と題した講演を行いました。

「ある精肉店のはなし」は、大阪府貝塚市で7代にわたり、家族経営で屠畜・精肉業を営んできた北出さん一家の記録とともに、差別されてきた地域の問題、人はいのちを食べて生きているという“生”の本質を丁寧に描き出した作品です。縦縞監督による講演では、この映画を撮るきっかけになった出来事、映画を通して伝えたい想いが熱く語られました。



ロビーでは、以下の人権啓発パネルの展示を行いました。

- ◇犯罪被害者等の人権
- ◇インターネットによる人権侵害
- ◇災害と人権

★ 会場でのアンケートより ★

- 屠場の牛を割る生の姿、その家族と地域の歴史、解放運動への思い、新しい時代の若者の姿、小学生のお孫さんの姿、すべて深く心にとまりました。
- 映画を見て自分が率直に感じたこと、それこそが向き合うべき感情だと思いました。ある程度人権について関わる機会もあり、頭では十分わかっているつもりでした。けれど、直視できませんでした。（部落）差別に対する正しい知識と理解を身につける必要性を改めて強く感じました。
- 私たちはいろいろな命をいただいて生かされているということを、改めて思い知りました。北出さんたちは、その牛の命に敬意をはらい、その命を尊重し完きなまでに大切に処理されている。自分の仕事に誇りを持って全力で最良のものを作るプロフェッショナルの姿勢を感じました。



Information お知らせ

事業・イベント紹介

ミニ番組「心呼吸しよう」を制作・放送しています

今年度も、ミニ番組を制作・放送する事業を行っています。

この事業は、県民の皆様にも人権啓発活動をより身近なものとして感じてもらえるよう、県内の関係機関や団体・地域住民のみなさんが、人権啓発活動を行っている様子を紹介する番組です。

再放送を含め全12回放送されますので、ぜひご覧ください。

- 番組名：「心呼吸しよう」
- 放送テレビ局：高知さんさんテレビ株式会社
- 放送日時：平成27年8月～平成28年2月
月1回最終日曜日（12月を除く）
午後5時25分～午後5時30分

※再放送は、本放送の翌土曜日
午前9時55分～午前10時00分



《番組を見逃された方は、さんさんテレビのホームページで過去放送分をご覧になることができます》



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
(送料は利用者のご負担となります)



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>